

令和 8 年 6 月 2 5 日
【宮城県蔵王町教育委員会】

令和 7 年度 特別の教育課程（ざおう英語活動）の実施状況等について

宮城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
蔵王町立円田小学校（外 4 校）	蔵王町教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
蔵王町立円田小学校	ホーム 「ざおう英語活動 News」 http://enda-es-zao.ed.jp/
蔵王町立平沢小学校	ホーム 「英語活動」 http://hirasawa-es-zao.ed.jp/
蔵王町立永野小学校	ホーム 「ざおう英語活動」 http://nagano-es-zao.ed.jp/
蔵王町立宮小学校	ホーム 令和 8 年度「ざおう英語活動」 http://miya-es-zao.ed.jp/
蔵王町立遠刈田小学校	ホーム「ざおう英語活動便り」（遠刈田小学校版） http://togatta-es-zao.ed.jp/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
蔵王町立円田小学校	http://enda-es-zao.ed.jp/	http://enda-es-zao.ed.jp/
蔵王町立平沢小学校	http://hirasawa-es-zao.ed.jp/	http://hirasawa-es-zao.ed.jp/
蔵王町立永野小学校	http://nagano-es-zao.ed.jp/	http://nagano-es-zao.ed.jp/
蔵王町立宮小学校	http://miya-es-zao.ed.jp/	http://miya-es-zao.ed.jp/
蔵王町立遠刈田小学校	http://togatta-es-zao.ed.jp/	http://togatta-es-zao.ed.jp/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（1）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない

- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

英語のネイティブスピーカーである ALT 3 名、CIR 1 名、そして英語専科教員 2 名を小学校 5 校に配置している。1～6 年生の「ざおう英語活動」に、組合せを考慮し各学年に英語専科教員 1 名、ALT 1 名が入り授業を行っている。児童は、英語が身近に感じられる環境の中、意欲的にざおう英語活動に取り組んでいる。保護者や地域からも、児童が家庭でも英語に興味を持って話そうとするなど英語教育特区の効果が高まっている様子が感じられる、との評価をいただいている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・実施している・実施していない |
|--|

<特記事項>

英語教育特区の実施状況を各小学校ホームページで公開するとともに、授業参観では、各小学校がざおう英語活動の授業を積極的に行い、保護者や地域へのざおう英語活動の公開授業も 1 年に 1～2 回は行っており、英語教育特区の成果を知ってもらえるよう努めている。地域の人々からもとても賞賛をいただいているところである。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例では、蔵王町がパラオ共和国との歴史的背景により、ざおう・パラオ子ども国際交流事業として、令和元年と 2 年に両国が中学生を交互にお互いの国に 12 名ずつ派遣した。また、観光のまち・蔵王町には多くのインバウンドが訪れることから、英語を中心としたコミュニケーション力の育成が求められている。そこで、蔵王町に住む子どもたちが将来グローバルな視点を持って活躍できるよう「ざおう English Education グローバルデザイン ～英語教育特区を活用した活気あるまちづくり～」を蔵王町が一体となって進めている。こども園・幼稚園からの早期英語教育も合わせて進めており、小学校 1 年生から 35 時間のざおう英語活動を行う本町では、独自のざおう英語活動年間カリキュラムに基づいて教育活動を実践している。「モチベーションからコミュニケーションへ」のテーマのもと、公開研究会である「ざおう英語活動実践発表会」を幾度か開催し、広く県内外にその成果を発表し更なる実践力の向上につなげている。子どもたちは、日常でも英語を使うようになり、大きな成果として「英語を聞き取る力」が高まっていることが実感される。また、本町の小学生は英語教育特区により身に付けた英語のコミュニケーション力を活用する場として、令和 3 年度よりオンライン国際交流を行っている。オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、パラオ共和国などの小学

生と英語を使って学校や町の景観や特色を紹介したり、ゲームを楽しんだり交流を行っている。英語のコミュニケーション力を活用する場としてとても良いと、児童・教職員から好評である。

令和８年度全国標準学力調査における蔵王町中学校１年生英語（小学校段階でのざおう英語活動の成果指標とするため実施）の調査結果は、中学校１年（令和８年４月当初の段階）の教科：英語における町内３中学校の平均正答率は、全国平均正答率 ８１．４％を超える ８３．５％となった。英語教育特区として小学校で特別の教育課程を編成し実施している「ざおう英語活動」の成果が表れたものと考えられる。

一方、本町の英語教育の課題としては、特区である小学校では１年生から専科教員により「オールイングリッシュ」の授業が行われているが、中学校の英語の授業ではまだ日本語が使われていることが散見され、小・中学校の接続が十分でないと感じられる。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本町が「ざおう英語活動」により目指しているのは、単に言語としての英語を学ぶことではない。国際交流のためのコミュニケーション力の育成であり、グローバルな人材の育成である。幼児期から小学校低学年・中学年では、音としての英語や人としての外国人に慣れ親しませ、「目で見える」「耳で聞く」活動を重視しながら、「話す」活動にも取り組ませる。そして、小学校高学年では、「聞く」「話す」活動をさらに推進するとともに、「読む」「書く」活動も取り入れている。このことにより、中学校での外国語へのスムーズな移行が可能となる。なお、特に幼児期から小学校低学年段階においては、相手とのスキンシップやリズムカルな身体表現を多く取り入れることにより心・体両面でのコミュニケーション力の基礎を養っておくことで、その後の英語活動が効果的に行われることを期待している。

令和７年１２月に、本特例を実施している円田小学校始め小学校５校の全児童を対象に実施したアンケートの結果は以下の通りである。

《ざおう英語活動についてのアンケート（町内全小学校児童）集計一覧》

○実施期日 令和７年１２月２０日

○実施方法 Web 回答（Google forms 選択）

項 目	対象人数（４１６名）	評 価
① ALT の先生の話す英語を聞き取ることができるようになりましたか	１～６年全員	良い 36.8% ほぼ良い 51.7%
② 好きなものや気持ちなど、英語の質問に答えることがきるようになりましたか	１～６年全員	良い 45.0% ほぼ良い 41.1%
③ 英語で書かれた文字や文を読むことができるようになりましたか	１～６年全員	良い 42.8% ほぼ良い 41.1%
④ アルファベットや物の名前などの英語	１～６年全員	良い 45.4%

を書いてみたいと思いますか		ほぼ良い 35.3%
⑤ 英語を使って自分のことを先生や友達に伝えたり、友達の話を聞いたりするのは楽しいですか	1～6年全員	良い 47.4% ほぼ良い 36.1%
⑥ もっと英語を話してみたいですか	1～6年全員	良い 53.8% ほぼ良い 27.2%
⑦ 英語以外の時間（国語や算数など）に、自分の思いや考えを発表したり話したりすることが増えましたか	1～6年全員	良い 36.1% ほぼ良い 38.2%

アンケートの結果、良い・ほぼ良い を合わせると、①英語を聞き取る 88.5% ②英語の質問に答える 86.1% ③英語の文字や文を読む 83.9% ④英語を書いてみたいと思う 80.7% ⑤英語で伝える・英語を聞くのは楽しい 83.5% ⑥もっと英語を話してみたい 81.0% ⑦英語以外の教科で発表が増えた 74.3% と肯定的な回答がほぼ 80%以上と高い割合を示している。ざおう英語活動がほとんどの児童に肯定的に受け止められ、児童の中に定着しつつあると捉えることができる。

ざおう英語活動を実施している町内小学校の関係教員による評価は以下の通りである。

《ざおう英語活動についてのアンケート（町内小学校教員）集計一覧》

項 目	対象人数（31名）	評 価
① 児童は英語を聞き取ることができるようになりましたか	5校の関係教職員	良い 41.9% ほぼ良い 54.8%
② 児童は英語の質問に答えることができるようになりましたか	5校の関係教職員	良い 38.7% ほぼ良い 54.8%
③ 児童はアルファベットや英語で書かれた文字などを読むことができるようになりましたか	5校の関係教職員 （1・2年担任除く）	良い 30.0% ほぼ良い 40.0%
④ 児童はアルファベットや英語で書かれた単語等を手本や教科書見ながら書くことができるようになりましたか	5校の関係教職員 （1・2年担任除く）	良い 50.0% ほぼ良い 40.0%
⑤ 児童は英語を学ぶことで以前より自分のことや友達のこと、好きなことなどに興味をもつようになったと思いますか	5校の関係教職員	良い 22.6% ほぼ良い 48.4%
⑥ 児童は英語の時間の学習を生かし、他教科で自分の考えや思いを発表したり話したりすることが増えましたか	5校の関係教職員	良い 16.1% ほぼ良い 61.3%
⑦ あなたは英語活動での学びが、英語のコミュニケーション力を高めることに	5校の関係教職員	良い 41.9% ほぼ良い 51.6%

ながっていると思いますか		
⑧ ざおう英語活動は、学級経営によい影響をもたらしていると思いますか	5校の関係教職員	良い 25.8% ほぼ良い 51.6%

アンケートの結果、良い・ほぼ良い を合わせると、①英語を聞き取る 96.7% ②英語の質問に答える 93.5% ③英語の文字などを読む 85.0% ④英語の手本や教科書を見ながら書く 90.0% ⑤英語を学ぶことで好きなことなどに興味をもつ 71.0% ⑥英語以外の他教科での発表や話が増えた 77.4% ⑦英語のコミュニケーション力が高まっている 93.5% ⑧英語活動が学級経営によい影響がある 77.4% と肯定的な回答が70～90%の高い割合を示している。特に、英語を聞き取ることができる 96.7% 英語の質問に答えることができる 93.5% 英語活動での学びがコミュニケーション力を高めている、93.5% と高い評価を得ている。「ざおう英語活動」の効果がほとんどの教師に評価され、児童の英語に対する興味・関心が高まり、英語によるコミュニケーション力が児童の発達段階に応じて確実に育っていると思われる。

また、本年2月の授業参観（英語活動）の後に行った「ざおう英語活動 保護者アンケート」の町内2小学校の保護者による評価は以下の通りである。

《ざおう英語活動についてのアンケート（町内2小学校の4・5年生保護者）集計一覧》

項 目	対象人数（35名）	評 価
① お子さまはざおう英語活動（英語の授業）を楽しみにしていますか	2校の4・5年生保護者	そう思う 34.3% ほぼ思う 62.9%
② お子さまは英語活動（英語の授業）についてご家庭で話すことがありますか	2校の4・5年生保護者	そう思う 28.6% ほぼ思う 40.0%
③ お子さまはざおう英語活動（英語の授業）で習った英語を使うことはありますか	2校の4・5年生保護者	そう思う 20.0% ほぼ思う 40.0%
④ ざおう英語活動は、お子さまの将来に役立つと思いますか	2校の4・5年生保護者	そう思う 68.6% ほぼ思う 31.4%

アンケートの結果、そう思う・ほぼ思う を合わせると、①英語活動を楽しみにしている 97.2% ②家庭で話すことがある 68.6% ③習った英語を使うことがある 60.0% ④英語活動は将来に役立つ 100.0% と肯定的な回答が多かった。特に、英語活動を楽しみにしている 97.2% 英語活動は将来に役立つ 100.0% と高い評価を得ている。授業後の感想でも「楽しみながら英語を学べていて、見ている側も楽しめた」「先生が一人一人をサポートしながら活動を進めてくれていて良かった」など「ざおう英語活動」がほとんどの保護者に評価され、子どもの将来に役立つと思われることが明らかになった。このように保護者の理解があれば、児童の英語に対する取組がより積極的になり、英語によるコミュニケーション力の高まりに繋がるものと思われる。

令和８年度全国標準学力調査における蔵王町中学校１年生英語（小学校段階でのざおう英語活動の成果指標とするため実施）の調査結果は以下の通りである。

《令和８年度全国標準学力調査 １年英語 調査結果》

○実施期日 令和８年４月２３日

○実施対象 町内３中学校１年生（８０名）

学年 ・ 教科	全国平均正答率	町内３中学校平均正答率
中学校１年 教科：英語	７７．５％	８４．７％

調査の結果、中学校１年（令和８年４月当初の段階）の教科：英語における町内３中学校の平均正答率は、全国平均正答率 ７７．５％を大きく超える ８４．７％となった。領域別正答率も８領域ですべて全国平均を上回っている。これで、５年連続して全国平均を超える高い英語力を保っており、英語教育特区として小学校で特別の教育課程を編成し実施している「ざおう英語活動」の成果が表れたものと考えられる。

この結果は、本町が「ざおう英語活動」という特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標の一つある、情報化、国際化の中で異文化と出会い交流することや、将来グローバル化した社会において自立した社会生活を送ることができるための英語によるコミュニケーション力の向上やグローバルな人材の育成に繋がるものと言える。

４．課題の改善のための取組の方向性

３に示すような課題を踏まえて、本町では小・中学校の連携の強化を図る必要がある。そのために、まず、ざおう英語活動推進会議には、小・中学校の英語教育担当や町の関係者も入り、情報交換を十分行いながら小・中学校の連携を図っていく。また、連携を強化するためには、小学校のざおう英語活動でどのような授業が行われているかを中学校の英語教員が把握する必要がある。小学校のざおう英語活動の授業を中学校の英語教員が参観したり小学校の教員が中学校の英語の授業を参観したりする機会を定期的に設け、小・中学校が連携し効果的な英語の授業を実践できる体制をしっかりと構築していきたい。

英語教育特区の指定を受け、９年目に入った。小学校のざおう英語活動で培われた力を持った子どもたちが中学生となり、その成果が表れることが期待される。国際交流のためのコミュニケーション力が高まり、将来に向けグローバルな人材を育成できるようしっかりと取り組んでいきたい。